

漢語動詞の受身文に関して

—日韓対照の立場から—

千 英子

1. はじめに

日本語と韓国語における受身文の対照研究はその形態・構文・意味・動詞に関する制約など様々な角度から研究されており、両言語の類似点と相違点は数多く指摘されている。その中で、動詞に関する制約の視点からの研究といえば、そのほとんどが一般動詞による受身文の研究である。しかし、日韓両言語はともに漢語系動詞が多く、実際漢語動詞の受身文が多用されている。

そこで、本稿では日韓両言語の対照研究の一環として両言語の漢語動詞の受身文について考察する。研究方法として、日本語の文学作品を対象とし、実際に使われている例文に基づいて、日本語の漢語動詞受身文がどのように韓国語に訳されるかを調査する。その中で、特に日本語の漢語動詞の受身文が韓国語では[doeda]⁽¹⁾被動文で⁽²⁾表わす表現となる実例を中心に引き上げ、漢語動詞の性質と意味的特性に焦点をあてて、日本語のどのような漢語動詞が韓国語の[doeda] 被動文として表されているのか、ということについて考察することを目的とする。

2. 先行研究

柴（1986）は韓国人には受動態の概念が希薄だと指摘している。その主な理由として、韓国語には本来動作の方向性の違いを表す受動態が、一定の文法的形式として存在しないということが挙げられている。それでは日本語と韓国語の両言語の受身文がどのように異なるかについて概観してみよう。まず、韓国語における被動文は日本語と比べて、多様な形態で表わされるのが特徴である。韓国語の被動文を分類する場合は、形態的な特徴が基準になることが多い。日本語の受身文は動詞の語幹に接尾辞「れる・られる」付加し

て生産的に作られる。一方、韓国語においては一般的に被動文として認められる形態は⁽³⁾、次の3つである。本稿ではそれぞれ i 類被動文、ii 類被動文、iii 類被動文と呼ぶ。

i 類被動文——被動の接尾辞「이(i), 히(hi), 「리(ri), 기(gi)」の接続による被動文

ii 類被動文——被動の補助動詞「아／어지다」(a／eo jida) の接続による被動文

iii 類被動文——被動の意味を表わす「되다」(doeda)、「받다」(badda)、「당하다」(danghada) の接続による被動文

i 類被動文は成立する動詞に制約が多く、韓国語の固有語動詞の中で接尾辞が接続できる動詞は限られており、さらに被動の場合だけではなく使役と自動詞とも重なっているため、場合によっては文脈の構造、文脈とのかわりによって判断するしかないという問題点も存在する。i 類被動文が成立しない固有語動詞は助動詞「아／어지다」(a／eo jida) によって被動の意味が表され、漢語動詞の場合は被動の意味を表す動詞「되다」(doeda)、「받다」(badda)、「당하다」(danghada) によって被動文を作ることができる。

本稿の研究対象は、先述の iii 類被動文に当たるもので、その中でも「되다」(doeda) による被動文のみである。ところで、「되다」(doeda) 被動文を作る方法は、日本語の場合とよく似ている。「漢語＋하다(hada) (する)」が他動詞の場合には以下のように被動文が作られる。

漢語＋하다(hada) → 漢語＋되다(doeda)

ただし、「되다」(doeda) は、他動詞「漢語＋하다(hada)」を被動文にするだけでなく、自動詞の形態と重なる場合がある⁽⁴⁾。また全ての漢語動詞が該当するのではなく、日本語の「注意される」「尊敬される」「歓迎される」「訓練される」等は韓国語では「되다」(doeda) による被動文を作ることができない。これらは韓国語では注意、尊敬、歓迎、訓練＋받다(badda) (受ける) による被動文になる。

(1)夕景色が顔の表を通るかのように錯覚された。(雪国)

저녁 풍경이 얼굴의 표면을 지나가는 것처럼 착각되었다. (설국)
「되었다」は「되다」の過去形である。

(2)田淵さんは料理雑誌の編集者だけに、いろんなレストランを知っていて、どこへ行っても歓迎されているみたいでした。(妻よ、安らかに)
다부치 씨는 요리잡지의 편집자인 만큼 여러 레스토랑을 알고 있고, 어디를 가나 환영받는 것 같습니다. (아내여, 편안히)
「받는」は「받다」の連体形である。

(3)それまでの私はといえば、吃りであることを無視されることは、それがそのまま、私という存在を抹殺されることだ、と奇妙に信じ込んでいたのだから。(金閣寺)

사실 그때까지 나는 말 더듬는다는 사실을 무시당하는 것은 바로 내 존재를 마살당하는 것일라도 묘하게 확신하고 있었다.
(금각사)

「당하는」は「당하다」の連体形である。

(1) (2) (3) はそれぞれ韓国語の「되다」(doeda)、「받다」(badda)、「당하다」(danghada) による被動文に訳されている。このように、日本語の場合は「漢語＋される」形で受身形式を表わすのに対して、韓国語の場合は同じ漢語動詞の受身文なのに三つの形式をもって受身形式を表わしている。

3. 「되다」(doeda) の意味と用法

本研究の主な目的は、「되다」被動文と対応する漢語動詞の意味的特性と性質を考察することによって、受身文の統語的・意味的特徴を把握することである。そのためには、「되다」が本動詞として使われる場合と補助動詞として使われる場合の違いを明確に把握する必要がある。

3. 1 「되다」(doeda) 本動詞の意味と用法

「되다」(doeda) が本動詞として用いられる例を見ることにする。

(4) 그는 교수가 되었다.⁽⁵⁾

彼は教授になった。(「되었다」は「되다」の過去形である)

例(4)のように「되다」が本動詞として用いられる場合、「なる」「できる」「変わる」などの意味を有するが、中心的な意味は「なる」であり、状態変化を表す。つまり(4)は、彼は教授ではない状態から教授である状態に変わったということを意味する文である。(4)の文中には「教授ではない状態」を示す成分は明示されていないが、それは文の解釈の上で必ずしも必要としないからであろう。一方、

(5) 그는 조교수에서 교수가 되었다.

彼は助教授から教授になった。(「되었다」は「되다」の過去形である)

(5)のように、「教授ではない状態」を文中に明示する場合は、状態変化の出来事がより具体的になってくる。

(6) 출발준비가 되었다.

出発の準備ができた。

(7) 공부가 잘 된다.

勉強がうまくいく。

(6)(7)文はある事柄ができるような状態であるという意味を表わす。この場合は、主体の状態変化ではなく、ある事柄が成立するか否かを表している。通常「되다」前に「잘 (よく、無事に)」と「안 (否定を表す副詞)」が修飾成分として対応する。以上の考察から、「되다」(doeda) が本動詞として使われる場合、事態の状態変化と成立状態を表す特徴をもっていると言える。

3.2 「되다」(doeda) の補助動詞としての意味と用法

(8) 彼は教授に任命された。

그는 교수에 임명되었다.

補助動詞の「되다」は、本動詞の「なる」の意味を受け続いており、事態の状態変化を表わす。この「되다」は動作性の漢語名詞に付加されて、状態変化という意味的特徴をもっている点においては(4)と同じであるが、その変化の実現する過程を言語化するか否かにおいては、(8)と(4)の間には次のよ

うな違いが見られる。一つは、(4)における変化は主体における変化で、その変化を表わす成分が反映されるが、(8)における変化は主体の変化ではなく、ある事柄の変化であり、さらにその変化の結果を表わす成分が漢語述語動詞によって反映されている。二つ目は、(4)の「되다」の先行する主格成分の格助詞「가」が省略できないことである。理由は主格成分と述語動詞は格助詞「가」によって主述関係で結ばれているからである。三つ目は、本動詞と補助動詞を区別するための要因になるのは対応する能動文への転換が可能かどうかということである。(8)の能動文は、「(皆が) 彼を教授に任命した。」であり、(4)のように本動詞の場合は、こういったことは不可能である。本研究で取り上げている例文は、「되다」が補助動詞として使われる場合に限られている。

4. 文学作品に見られる対応状況

本稿では、前述の先行研究を踏まえ、日本語の文学作品における漢語動詞の受身文が韓国語ではどのように訳されるのかを調べてみた。その中で、韓国語の「되다」被動文に訳される事例を中心に上げ、意味的特徴と漢語動詞の性質に視点を当てて日本語の受身文はどういう意味的特性をもち、いかなる漢語動詞と結びつくのかを分析することにする。

4.1 「되다」被動文の意味的特徴

(9) 私は早春の凜冽な大気に鼓舞されて、・・・(金閣寺)

나는 이른 봄날 살을 에일 듯한 대기에 고무되어... (금각사)
「되어」は「되다」の連用形である。

(10) つまりあまりにも相手が若くて美しいんで、(私は) それに圧倒されちゃって... (ノルウェイの森)

결국 상대가 너무 싱싱하고 예쁘니까, 거기에 압도돼 버린 거예요... (상실의 시대)

「돼 버린」は「되다」を用いた「されちゃって」の意味に当たる。

(9)(10)は、何れも韓国語では「되다」被動文に訳されており、主語は「私」

で((10)の「私」は筆者が書き加えたものである)有情物受身文で、動作主の行為によってある事柄が変わったことを表わしている。つまり「鼓舞される／고무되다…」「圧倒される／압도되다」という行為は、動作主である「大気」「それに一相手の若さ」によって、被作主である「私」がそれぞれ「鼓舞される」「圧倒される」という状態に変わってしまったと言える。ただし、「私」が「鼓舞されて」「圧倒されて」しまうのは、特定の個人として現れる動作主ではなく、ここではむしろ動作主というより「原因」に過ぎないと言える。このように、動作主が具体的でないだけに、このような文の表現の特徴は主語の状態変化として捉えられる。

(11)逆に年齢を超越した若々しさのようなものがしわによって強調されていた。(ノルウェイの森)

오히려 그 반대로 나이를 초월한 젊음 같은 것이 그 주름에 의해 강조되고 있었다. (상실의 시대)

「되고」は「되다」の連用形で、主に現在連用形の動作を表す場合使われる。

(12)手紙は直子の実家から「ここ」に転送されてきた。(ノルウェイの森)

편지는 나오코의 집에서 「이곳」으로 전송되어 왔다. (상실의 시대)

「되고」は「되다」の連用形である。

(11)(12)は、主語にたつ「若々しさ」「手紙」は非情物で、非情物受身文の場合も日本語の受身文に「되다」被動文が対応することが分かる。「しわ」「実家」によって被動作主である「若々しさ」「手紙」に「強調される」「転送される」という状態の変化が生じたことにおいては、(9)(10)の場合と変わりがないと思われるが、ここで(9)(10)も含めて事態の状態変化における動作主、原因の関与は認めるべきであろう。

まとめてみると、「되다」被動文は主語が有情物の場合にも非情物の場合にも対応することが分かる。(9)(10)の「私」が「鼓舞する」から「鼓舞される」という事柄や、(12)の「手紙」が「転送する」から「転送される」という事

態の状態変化に動作主、原因の関与は認められることになるが、意味的特徴として何の利害関係はなく、ただ事態の状態変化を客観的に・中立的な立場で叙述するだけである。一方、これらの漢語動詞の特徴は相手に働きかける動作・行為ではなく、主に心理・精神活動に関わる動詞であり、さらにその動作・行為には被動作主の意思表示を必要としないので、実際に被る影響は比較的少ないということになる。つまり、具体的な物理的行為を伴わず、実際それに伴う影響も少ない心理・精神活動に関する受身表現の場合は、動作主が具体的であってもそうではなくても「되다」被動文と対応すると思われる。

ところで、「되다」被動文の意味的特徴は以上に述べた通りであるが、さらにその意味を的確に把握するためには、日本語の「する」文に対応する「되다」文にも注目すべきであると考えられる。韓国語ではある種の漢語動詞は、前述の「되다」と同一の形態で日本語の「する」に対応する場合がある。

- (13) a. ごみで川が汚染した。
b. ごみで川が汚染された。
쓰레기로 강이 오염되었다.
- (14) a. 集会が解散した。
b. 集会が解散された。
집회가 해산되었다.

(13) a と b (14) a と b は同じ文脈で現れ、意味的な差はほとんど見せず、両方とも韓国語の「오염되었다」「해산되었다」で対応している。このように、日本語の「する」と「される」が同時に成立する場合用いられる漢語動詞の特徴を見ると、まず自他両性をもっており、その自動詞による表現は事態の状態変化を表すものである。このような条件を満たした場合、「漢語＋する」と「漢語＋される」は類似した表現となり、ともに韓国語では「漢語＋되다」表現となる。

以上「되다」の本動詞として使われる場合と補助動詞として使われる場合及び「漢語＋する」「漢語＋される」に同時に対応する場合について考察したが、漢語動詞の意味を明確に把握しないと状態動詞と被動文との混同を招き

かねないのである。したがって再論になるが、もう一度強調しておきたいのは、本研究の立場は「되다」が補助動詞として使われ、しかも文脈上の意味から被動文として認められる場合のみに限って、本研究の対象として取り上げることとする。

4.2 漢語動詞の性質の特徴

前節では、先行研究を踏まえ日本語の漢語動詞の受身文が韓国語の「되다」被動文に対応する場合意味的特徴に注目して、日本語の受身文はどういう意味的特性をもっているかについて考察した。本節では漢語動詞の性質の特徴に焦点をあてて、いかなる漢語動詞と結びつくのかを分析することにする。

表 被動文の分類別漢語動詞の使用状況

되다被動文	받다被動文	당하다被動文
1 整頓される (ノ)	歓迎される (妻)	搾取される (ノ)
2 計算される (ノ)	紹介される (キ)	監禁される (ノ)
3 整理される (ノ)	教育される (キ)	銃殺される (ノ)
4 修理される (金)	訓練される (ノ)	無視される (金)
5 局限される (金)	理解される (キ、金)	誘導される (金)
6 細分される (金)	委託される (金)	所有される (金)
7 管理される (金)		侮蔑される (金)
8 統括される (金)		抹殺される (金)
9 解体される (ノ)		
10 投下される (ノ)		
11 増築される (ノ)		
12 印刷される (ノ)		
13 完成される (ノ)		
14 編曲される (ノ)		
15 達成される (ノ)		
16 浮彫される (金)		
17 濾過される (金)		
18 構築される (金)		
19 造形される (金)		
20 発見される (金、妻)		
21 浄化される (キ)		
22 拡張される (ノ)		
23 追加される (ノ)		
24 軽減される (金)		
25 錯覚される (雪)		

26	圧倒される (ノ)		
27	看過される (金)		
28	証明される (金)		
29	陶冶される (金)		
30	抱擁される (金)		
31	約束される (金)		
32	賦与される (金)		
33	鼓舞される (金)		
34	触発される (金)		
35	検挙される (金)		
36	釈放される (金)		
37	指定される (金)		
38	運営される (ノ)		
39	放置される (ノ)		
40	強調される (ノ)		
41	許可される (ノ)		
42	維持される (ノ)		
43	保存される (ノ)		
44	解放される (ノ)		
45	処分される (ノ)		
46	閉鎖される (金)		
47	中断される (金)		
48	遮断される (金)		
49	公開される (金)		
50	再開される (ノ)		
51	転送されら (ノ)		
52	委託される (金)		

(ノ) は「ノルウェイの森」、(金) は「金閣寺」、(妻) は「妻よ、安らかに」(雪) は「雪国」を指す。

まず、それぞれ「되다」(doeda)「받다」(badda)「당하다」(danghada) 被動文に訳された漢語動詞の受身動詞をまとめると上記の表のようになる。表から分かるように、「되다」(doeda)被動文の割合が圧倒的に多い傾向がある。すでに指摘したように、「되다」(doeda)の複雑さが原因で、特に韓国人の日本語学習者は韓国語の「漢語+되다」形を安易に日本語の「漢語+される」形に置き換える可能性があり、漢語動詞受身文の誤用に繋がる恐れがある。したがって、本稿では表の結果にとどまらず、さらに日本語のどのような漢語動詞の受身文が韓国語の되다 (doeda) 被動文として表されているのかを分

析することにする。これはたいへん興味深いことで、韓国人学習者における日本語の受身文の習得ばかりではなく、日本における韓国語の教育現場でも役立つものと期待される。

それでは以下のように、韓国語の「되다」(doeda) 被動文と対応する際の、日本語の受身文における漢語動詞の特徴を、a～fの六つの種類に分けて考察することにする。

- a. 1～9の動詞が用いられている受身文が9例使われていた。これらの動詞にはある事態をまとめるか、ないしは分けるという意味合いが含まれている。

(15)机の上はきちんと整理され、その前の壁にはスヌーピーのカレンダーがかかっていた。(ノルウェイの森)

책상위는 깨끗이 정리되어 있었고, 그 앞의 벽엔 스누피가 그려진 달력이 걸려있었다. (상실의 시대)

「되어」は「되다」の連用形である。

(16)たまさかの失火はあっても、火は寸断され、細分され、管理されるにいたった。(金閣寺)

어쩌다가 실화라는 것이 있어도 불은 곧 꺼졌고 세분되어서 관리되었다. (금각사)

「되어서」は「되다」の連用形である。

(17)高邁な哲学に統括され、それに服するにいたるのである。(金閣寺)

고매한 철학에 통과되어 거기에 굴복하기에 이르렀다. (금각사)

「되어」は「되다」の連用形である。

(16)の「寸断される」に対して、「촌단되다」を用いて되다 (doeda) 被動文で対応することが可能であるが、本文では自動詞の「꺼지다」(消える)で対応している。この場合韓国語においては、「火が消える」という表現がより自然的であると考えられる。ただし、対象が「道」「棒」など実物の場合は韓

国語でも「道が寸断される」「棒が寸断される」のように、「길이 중단되다」「몽둥이가 중단되다」と言える。

- b. 10～21の動詞が用いられている受身文が12例使われていた。これらの動詞は、その動作によって、新しいもの・事柄が作られるという意味あいをもっている。

(18) 直子の肉体はあまりにも美しく完成されていた。(ノルウェイの森)

나오코의 육체는 너무나도 아름답게 완성되어 있어서. (상실의 시대)

「되어」は「되다」の連用形である。

(19) 夜明けの青の中でなにもかもこんなに浄化されて見えることを私は最近知った。(キッチン)

새벽의 푸르름 속에서는 모든 것이 이렇게 정화되어 보인다는 것을 나는 최근에 알았다. (키친)

「되어」は「되다」の連用形である。

(20) みんなの幸福が達成されるということは原理的にありえないことですからね。(ノルウェイの森)

모든 사람의 행복이 달성되는 일은 원리적으로 있을 수 없으니까요. (상실의 시대)

「되는」は「되다」の連体形である。

この種類の漢語動詞による受身文は、動作主は省略される場合が多く、被動作主は非情物が多い。

- c. 22～24の動詞が用いられている受身文が3例のみ使われていた。これらの動詞は上下、前後、増減など方向性の意味合いをもっている。

(21) 月光の角度のせいで、彼女の唇の影が拡張されていた。(ノルウェイの森)

달빛의 각도 탓으로 입술의 그림자가 과장되어 있었다. (상실의 시대)

「되는」は「되다」の連体形で、「되어 있었다」は「されていた」に当たる。

(22)しかし、前夜になって、お供としてもう一人の新入りの徒弟が追加され、私のその日にかけた望みはすでに半ば徒になった。

(金閣寺)

그전날 밤에 새로 들어온 또 한 사람의 도제가 추가되어 내가
걸었던 기대는 반쯤 수포로 돌아가 버리고 말았다.

(금각사)

「되어」は「되다」の連用形である。

(23)認識は生の耐えがたさがそのまま人間の武器になったものだが、
それで以て耐えがたいは少しも軽減されない。(金閣寺)

인식은 생의 어려움이 그대로 인간의 무기로 되어 버린 것인데,
그것으로써 견디기 어려운 상황이 조금도 경감되지는
않아. (금각사)

「되지는 않아」は「되다」による「されない」の表現にあたる。

この種類の動詞によって作られた受身文の場合は、主語はほとんどが非情物であり、述語動詞は働きかけ性が弱い自動詞に近い特徴をもっており、動作主は現われにくいといえる。

d. 25～44の動詞が用いられている受身文が20例も使われていて、圧倒的に多かった。これらの動詞は、ほとんどが動作・行為に対して意志表示を求められない。一方、物理的な行為を伴わず、人間の知的、感性的、感情的な働きを表わすか、ないしは人間の内的、心理的現象など精神活動に関わる特徴をもっている。

(24)景色が顔の表を通るかのように錯覚されて、見極める時がつかめないのだった。(雪国)

풍경이 얼굴의 표면을 지나가는 것처럼 착각되어서 그것을
확인할 틈이 붙잡히지 않는 것이었다. (설국)

「되어서」は「되다」の連用形で、理由を表す。

(25) 君のはいつも解放されてるみたいに見えるけどね。(ノルウェイの森)

너야 늘 해방되어 있는 것처럼 보이는데. (상실의 시대)

(26) 私は自分の出奔が老師のこの言葉に触発され、衝動によって行なわれたと考える方を好む。(金閣寺)

그런데도 나는 자신의 출분이 노사의 이 한 마디에 촉발되고, 충동에 의해서 행해진 것으로 만들고 싶었다. (금각사)

「되고」は「되다」の連用形である。

e. 45～49の動詞が用いられている受身文が5例使われていた。これらの動詞は一時的な中断・再開などの意味をもっている。

(27) ストが解除され機動隊の占領下で講義が再開されると、いちばん最初に出席してきたのはストを指導した立場にある連中だった。

(ノルウェイの森)

동맹 휴학이 철회되고 기동대의 점령하에서 강의가 재개되자, 맨 먼저 출석한 학생들은 동맹 휴학을 선동, 주도했던 패거리였다. (상실의 시대)

「고」は用言の語幹につき、2つ以上の事柄を並列する時使われる。「되고」は「되다」の連用形で、「되자」は「されると」に対応する。

(28) 歴史はそこで中断され、未来へ向かっても過去へ向かっても、何一つ語りかけない顔。(金閣寺)

역사는 거기서 중단되고 미래를 향해서도 과거를 향해서도 입을 떼지 않는 얼굴. (금각사)

「되고」は「되다」の連用形である。

(29) 人生の意味から遮断された隔離病室のようなものであった。

(金閣寺)

인생의 의미와는 차단되어진 격리병실과 같은 것이었다. (금각사)

「되어진」は「되다」の過去連体形である。

f. 50～51の動詞が用いられている受身文が2例だけ使われているが、これらの動詞は、ある動作を指定の対象として所有の移動を表わす特徴をもっている。

(30) それは人間精神の中で認識に委託された残りの部分、剰余の部分の幻影なんだ。 (金閣寺)

그것은 인간 정신 중에서 인식에 위탁된 나머지 부분의 환영인 거야. (금각사)

「된」は「되다」の過去連体形である。

(31) 手紙は直子の実家からここにすぐ転送されてきた。(ノルウェイの森)

편지는 나오코의 집에서 이곳으로 바로 전송되어 왔다. (상실의 시대)

「되어 왔다」は「되다」による「されてきた」表現に当たる。

例(30)(31)の受身文はそれぞれ(30)' (31)' のように、「xは(が)yにzをする」という三項の格成分をとる述語動詞をもつ能動文と対応する。

(30)' 人間精神 (の中) は認識にそれを委託した。

(31)' 直子の実家がここに手紙を転送してきた。

このように、(30)(31)は「移動の対象」である「それ」「手紙」を主語に立てている受身文で、動作主は「～から」「～に」でマーカーされる特徴がある。

以上のように、韓国語の「되다」(doeda) 被動文と対応する際の、日本語の受身文における漢語動詞の語彙的特徴について考察した。ところで、表からみると、使用頻度は「되다」(doeda) 被動文より少ないが、日本語の漢語動詞の受身文は「받다」(badda) 被動文と「당하다」(danghada) 被動文と対応する場合がある。本研究の対象は主に「되다」(doeda) 被動文であるが、「되다」(doeda) 被動文の特徴をよりの確に把握するため、ここで副次的に「받다」(badda) 被動文と「당하다」(danghada) 被動文について簡単に触れることにする。

4.3 「받다」 (badda) 被動文

(32) 「えり子さんに教育されたからな。」雄一は笑って言う。(キッチン)

「에리코 씨한테 그렇게 교육받았거든」유이치가 웃으며 말한다. (키친)

「받았거든」は「받다」の「過去形+からな」に当たる表現である。

(2) (32) は「받다」(badda) 被動文である。これらの例文を見ると、主語が有情物で、主語が動作主の行為・影響を直接受けるという関係の中で主語と動作主との利害関係を表している。また、(2) の「歓迎される」のように主語にとって好ましい「受益」の場合と (32) 「教育される」のように主語にとって好ましくない「被害」の場合に関わらず使われる。

4.4 「당하다」 (danghada) 被動文

(33) 私きっとおにぎりに梅干しか入れなかったっていう理由で銃殺されちゃうもの。(ノルウェイの森)

난 틀림없이 주먹밥에 매실 장아지밖에 넣지 않았다는 이유로 총살당해 버릴 거예요. (상실의 시대)

「당해 버릴거예요」は「당하다」による「されちゃうもの」に当たる表現である。

(3) (33) は「당하다」(danghada) による被動文で、何れも主語に立つものは有情物である。前述の「받다」被動文は主語が動作主の行為・影響を直接受けるという関係の中で、その利害関係が主語にとって好ましいか否かは好ましくないかという意味あいを表すが、特に主語の意思に反していないと言える。それに対し、「당하다」被動文は、動作主の行為の結果は主語の意思に反するものであることを表わし、被害の意味を表す漢語名詞が先行することが分かる。

5. おわりに

以上、日本語の文学作品を対象とし、日本語の漢語動詞の受身文が韓国語の「되다」(doeda) 被動文に訳される場合、その意味的な特徴と動詞の制約を中心として考察を行ってきた。考察から主語が有情物の場合と非情物の場合に関わらず対応するが、利害関係はなく、ある事柄の状態変化を客観的に・中立的に表現する場合韓国語の「되다」(doeda) 被動文と対応する頻度が高い傾向を示している。また、主に物理的な行為を伴わず、人間の知的、感性的な表現ないしは内的、心理的な現象など精神活動に関わる場合「되다」(doeda) 被動文が多用されていることが分かった。今後は「받다」(badda) 被動文と「당하다」(danghada) 被動文との言い換えと使い分けを含めて、データをさらに充実させて考察することを課題にしていきたい。

注

- (1) ハングルのローマ字表記は、2000年7月に韓国教育部及び文化韓国部によって改訂された「ハングルローマ字表記表」によるものである。
- (2) 「被動」は韓国語の受動の意味を表すもので、「被動文」という用語は、韓国語における受身文を指すものである。本稿では日本語と韓国語の受身文をともに指す場合は、「両言語の受身文」と呼ぶことにする。
- (3) 韓国語の被動文において、3つの形態をともに被動文として認める学者と、接尾辞による被動文の形態のみを被動文として認める学者に分けている。本稿では3つの形態をともに認めて考察の対象とする。
- (4) 우은혜 (1977) を参照されたい。
- (5) 作品名が書かれていない例文は作例である。

参考文献

- 生越直樹 (1982) 「日本語漢語動詞における能動と受動—朝鮮語hadaとの対照」『日本語教育』48
- 梅田博之 (1982) 「韓国語と日本語—対照研究の問題点」『日本語教育』48
- 우은혜 (1977) 「우리말 피동 연구」 한국문화사

柴公也（1986）「漢語動詞の態をいかに教えるか—韓国人学生に対して—」『日本語教育』

59

仁田義雄（1991）『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版

裴禧任（1988）『国語被動研究』成東文化社

任洪彬（1978）『国語被動化의 意味』震檀學報

例文出典

- | | | |
|------------|-----------|------------------|
| ①「雪国」 | 川端康成（作） | 新潮文庫（1947／7 出版） |
| 「설국」 | 서기원（訳） | 문예출판사（1977／12出版） |
| ②「金閣寺」 | 三島由紀夫（作） | 新潮文庫（1960／9 出版） |
| 「금각사」 | 서기원（訳） | 청림출판（1991／10出版） |
| ③「ノルウェイの森」 | 村上春樹（作） | 講談社文庫（1991／出版） |
| 「상실의 시대」 | 유유정（訳） | 문학사상사 |
| ④「妻よ、安らかに」 | 高木杉光（作） | 多楽園出版部（2002／出版） |
| 「아내여편안히」 | 多楽園出版部（訳） | 多楽園出版部（2002／出版） |

（ちょん よんざ）